

串本古座高等学校（古座校舎）

実施日時	① 平成30年8月30日（木）、②平成30年11月1日（木）
参加者	生徒28名、教職員7名、近隣小学生及び引率教員82名 計117名
実施内容	① 地震、津波を想定した予告無しの避難訓練（全学年） ② 地震・津波避難訓練、ネット動画の鑑賞、避難所用パーティション体験、簡易担架作り、負傷者搬送体験、アルファ化米非常食調理体験

事前の取組

①、②とも担任指導の機会を持ち、地震や津波の被害を身近なものとして考えられるように配慮した。また②は、古座小学校との打ち合わせを行い、連携がとれるよう配慮した。

主なプログラム

- ① 14:15 HR集合、授業
14:25 地震発生（緊急地震速報）、待機指示放送、安全確認
14:26 大津波警報発令放送、屋上への避難指示
14:30 屋上への避難完了、点呼
14:35 教頭による避難訓練への講評
14:50 HR教室に戻り、担任からの講話
15:05 終了

- ② 9:40 HR集合
担任より訓練計画の概要説明、避難時の行動についての確認
10:00 地震発生
安全を確保した上で新館へ避難、古座小学校児童も避難開始
10:10 新館へ避難
古座校舎生徒、古座小児童の点呼確認

10:30 体育館集合

- ① ネット動画の鑑賞
◇TEAM 防災ジャパン：東日本大震災の教訓を未来へ～いのちを守る防災教育の挑戦～
[釜石市・黒潮町の取組]
◇TEAM 防災ジャパン：くまでもわかる!?「地震への備え」
② 講習会（3班に分かれ事前学習した高校生が小学生を指導・助言）
◇避難所用パーティション体験
◇α 化米非常食調理体験
◇簡易担架作りと負傷者搬送訓練
12:00 講習会終了（ふり返し発表）
12:10 HR教室でのアンケート及び担任からの講話
12:30 閉会

参加者感想文

○アルファ米調理に参加し、避難時には一人一人が協力し合うことが大切だと感じた。それぞれの役割を分担して作業を行うことで手際よく進められるし、自然と会話が生まれる。避難中は慣れない環境で心身ともにしんどいだろうと思う。そういう時はじっとしているよりも何かすることを見つけて、それを行った方が気が紛れ

るのではないだろうかと考えた。また、他人と作業することで「一人じゃない」と思い、心も少しは楽になるのではないかなと思う。

○今回は避難訓練だったのでスムーズに移動できたが、実際に地震が起こればパニックになったり建物自体が崩れてしまい、がれきなどによって移動できないことも考えられる。その時のための対策も考えなければならぬと思う。

○2年前にも担架作りを経験したが、少し忘れてしまっていた。このような練習を積み重ねるのは大切だと思う。最初は竹竿と毛布を使ったが、竹竿のようなものが見つからないときは、毛布や上着だけで運ぶ方法も学べてよかった。



成果と課題

- ① 避難訓練は緊張感を持って訓練に取り組めた。しかし、授業中で生徒が教室にそろった状態で開始したため教師の指示も全員に伝わるが、昼休みなど休憩時間中に地震が起きれば各自の判断で避難することになる。避難場所が分散した場合の安否確認等も考えていかなければならないと思う。
- ② 小学生に指導・助言をしなければならないということで、高校生は意欲的に取り組んでいた。計画当初は新館以外の避難場所についても検討したが、小学校低学年は普段と違う場所に避難するのは難しいとして、今回は見送った。来年度、小学校で避難場所等の再検討を行うことになった。

